

# 五雲会

平成三十一年三月十六日(土)

開演 十二時(正午)  
開場 十一時  
於 宝生能楽堂

## 演目の解説

**能「籠」(えびら)**  
旅の僧が須磨の生田川に通りかかり、今を盛りと咲く梅の木を眺めていると、若い男に出会った。僧が梅の木の名前を尋ねると男は「籠の梅」という名前で、自分が付けた名であると答え、その名で、自分が付けた名であると答える。す。そして生田の森の合戦に、源氏方の梶原源太景季が籠に挿した紅梅を笠印として奮戦したことを詳しく語り、自分はその景季の幽霊であると語り、季節が若武者の姿で現れ、在りし日の戦さを再現し、供養を頼んで去って行きます。

**狂言「棒縛」(ぼうしぼり)**  
主人は、自分の留守に召使いの太郎冠者と次郎冠者が酒を盗み飲み、酔いしれ、一人は酒を棒にしばりつけ、もう一人は手を後ろにしばりつけ、出かれました。残された太郎冠者と次郎冠者は、酒のおいだけで、嗅ぐと酒蔵に入ります。すると、においを嗅いだ後はどうしても酒が飲みたくなくなり、太郎冠者が盃で酒を汲みませんが…。

**能「祇王」(ぎおう)**  
平清盛の寵愛を一身に受ける白拍子の祇王御前は、後から都にやって来た仏御前に会おうとしない清盛を許さず、出仕を控えていたところへ、二人共清盛のもとに参上するようにと瀬尾太郎が迎えに来ます。二人は揃って出仕し、仏御前の願いも叶ったので、改めて舞を舞うために一度退場し、同じ衣装と同じ金の立て烏帽子を身につけて登場します。中之舞、曲舞を舞い、心が移つても友情は変わらない事を誓い合います。美しい二人の舞姫の相舞が見ものの小品。

**能「海人」(あま)**  
藤原淡海公の子、房前の大臣は自分の母の出自について詳しく知るために、讃州志度の浦へ赴きます。そこに現れた海人は臣下の問いに詳しく答え、唐土から贈られた三つの宝物のうち、「面向不背の珠」という宝を竜宮に取られてしまい、それを引き上げて亡くなつた海人こそ房前の母であつたと告げ、珠を取り返した様子を見せ、母の幽霊と名乗って海中に消えます。房前が追善供養を行うと、母が龍女の姿で現れ成仏を喜びます。

12:00

## 籠

シテ川瀬 隆士

ワキ野口 琢弘

大鼓 大倉栄太郎  
小鼓 住駒 俊介

笛 成田 寛人

ワキツレ 則久 英志

〃 吉田 祐一

間 上杉 啓太

後見

宝生 和英  
渡邊 茂人

地謡

朝倉 大輔  
田崎 甫  
金森 良充  
藪 克徳

水上 孝史 優  
武田 光夫  
東川 宏司  
澤田 宏司

13:15

## 棒縛

野村万之丞

野村 万蔵  
野村拳之介

13:55

## 祇王

ツレ當山 淳司  
シテ東川 尚史

ワキ村瀬 提

大鼓 原岡 一之  
小鼓 飯富 孔明

笛 藤田 貴寛

後見

今井 泰行  
小倉伸二郎

地謡

金井 賢郎  
金森 隆晋  
佐野 弘宜  
亀井 雄二

大友 高順  
高橋 巨  
山内 崇生  
和久莊 太郎

15:15

## 海人

子方水上 嘉  
シテ小倉健太郎

ワキツレ 矢野 昌平

ワキ 福王 和幸

ワキツレ 村瀬 慧

間 河野 佑紀

大鼓 柿原 光博  
小鼓 田邊 恭資

太鼓 大川 典良  
笛 杉 信太郎

後見

佐野 登  
佐野 玄宜

地謡

藤井 秋雅  
今井 基  
金野 泰大  
辰巳大二郎

野月 雄資 聡  
金井 辰巳満次郎  
高橋 憲正

## 次回予告

平成三十一年四月二十日(土)  
正午 始

志賀 和久莊太郎

巴 今井 基

小塩 渡邊 茂人

終演予定 十六時四十五分頃